

2023年1月5日・日本共産党新春のつどいでのあいさつ（大要）

日本共産党新春のつどいにお集まりの皆さん、新年おめでとうございます。

2023年は、知事選挙、県議会議員選挙、そして盛岡市議会議員選挙など地方選挙がたたかわれる年です。情勢次第では総選挙もありえます。元旦から西部後援会・神部市議と恒例の元旦宣伝に取り組み、2日・3日には箱根駅伝を見ながら町内を訪問し、10数人の後援会ニュース会員を増やしました。今日は、朝5時過ぎから盛岡中央卸売市場の初市式に庄子市議・三田村市議と参加してきました。自民党や女性の知事候補など選挙戦の激しさを示すものでした。今年たたかわれる選挙戦で、皆さんと力を合わせて必ず勝ち抜く決意を表明します。

第一に問われる課題は、岸田政権の戦後最大の逆流である大軍拡をストップさせる国民的大運動を広げることです。一つ一つの選挙戦で岸田自公政権の大軍拡にNO！の審判を下すことです。

軍事費を5年間で2倍化にする大軍拡は、「専守防衛」をかなぐり捨てる「戦争国家づくり」への暴走です。来年度政府予算では、軍事費が6兆8千億円に大幅に増額されるとともに、防衛力強化資金として3兆3800億円が盛り込まれました。合計すると10兆2千億円の軍事費となります。タガが外れた大軍拡の暴走を断固として阻止する国民的な大運動を広げ、一つ一つの選挙戦で審判を下しましょう。統一協会と癒着した自民党の実態を徹底して追求していきましょう。

第二に、県政の分野では、達増県政の継続・発展を勝ち取り、市民と野党の共闘のかなめとなる日本共産党3人の県議団の議席を必ず勝ち取ることです。

達増県政は、戦後最大の災害、東日本大震災の復興の取り組みで、憲法13条の精神で「被災者一人一人の幸福追求権を保障する」ことを基本方針に、被災者の立場に立った復興を進めました。その象徴は、被災者の医療費の免除を10年間にわたって継続実施したことです。11年目は非課税世帯に限定しましたが免除が継続されました。これは被災者に一番喜ばれた「命綱」となりました。この背景には県民の運動と日本共産党と県議団の奮闘がありました。

新型コロナ対策では、岸田政権の無為無策、成り行き任せの中で、全国一の県立病院と公立・公的病院のネットワークで対応してきました。12月、県内では4万6千人余の新規感染者、245件のクラスター、その6割が高齢者施設でした。死者は149人と11月の2倍以上となりました。岩手医大病院では、「12月6つのクラスターが発生し、200床が使えなくなった。これまでで一番厳しい状況だ」と訴えています。物価高騰対策では、2年連続で低所得者に対する福祉灯油助成を実施、医療機関、高齢者施設、農業・漁業者等への物価高騰支援金も実施します。

子育て支援では、今年2回にわたって子育て支援給付金を支給、市町村がそれぞれ上乗せ補助を行いました。子どもの医療費助成は、33市町村が来年度から高校生まで医療費助成を拡充します。8月から高校生までの現物給付化をめざしています。こうした県民の立場に立った達増県政を継続発展させましょう。建設的提案と県民の運動で県政を前に進める日本共産党県議団の役割も決定的に重要です。

第三に、今日開かれた第7回中央委員会総会では、今年の最大の任務として、「130%の党」づくりと目標の達成が提起されました。地方選挙勝利にとっても、勝利への最大の活路が、強く大きな党づくりです。すべての支部と党員の皆さんと力を合わせて、強く大きな党をつくり、選挙に勝利しましょう。

その先頭に立つ決意を表明して、私のあいさつといたします。共に頑張りましょう。